

橋本福恵

佳^{よし}

美^み

の

時

刻



佳美の時刻

僑本福恵



橋本福恵

広島県双三郡布野村生

1973・詩集『海の火』（蘭発行所）

1976・文芸誌『河』創刊・主宰

1978・詩集『思いの風土』（書肆季節社）

「地球」「蘭」同人

現住所＝〒729-01 福山市松永町1丁目19

佳美よしみの時刻

一九八四年四月二五日発行

著者——橋本福恵

発行——竹岡準之助

発行所——あすなろ社

東京都練馬区南田中五―一〇―一六

電話〇三―九九六―五二九二

振替 東京九―六七四四七

定価——一五〇〇円

印刷所——信毎書籍印刷

製本所——大口製本印刷

万一落丁・乱丁の場合はお取替えいたします

©1984 Fukue Hashimoto

ISBN4-87034-039-9

佳美ともみの時刻——目次

I 地脈の水より

地脈の水より 10

見えない時刻 12

夢の中を歩いていた 16

乗れないおまえを抱きあげて

20

II 愛のゆくえ

愛のゆくえ 24

母と子のうた 26

よしみから

かあちゃんから

夢の中から 32

わたしのかあさん 34

夢の木——Ⅰ 36

夢の木——Ⅱ 39

生命のほむら 42

Ⅲ 指の渦をめぐる章

なつかしい生命のすじ 46

あふれる清新 49

わたしにできるものは 52

渦の川 55

Ⅳ 宇宙の結び目

わたしのことば・は 60

目・耳・口・のほかに 63

ここは動物園ではありません
見えない巻紙の 70 66

V 生みつけよ おまえの明日
千の耳をそばだてても 78
伝言のように 80

海の花 82

何処いづこに 84

見上げる高さにとどかない 86

神さまの島 88

九月三十日は誕生日 90

生みつけよ おまえの明日 92

母と子の合作詩 97

あとがき

108

装幀／橋本幹男

本文カット／坂本栄一・橋本充治

カバー・カットは佳美の手型（1984・3・31）

詩集

佳美^{よしみ}の時刻

橋本福恵

I
地脈の水より



地脈の水より

不自由な子どもが 一人居ると

どうしても 家族の愛情はその子にむかって求心する
その子にたいする暖かさは自由な者が不自由さを
省りみることであるか

その子にたいする哀しみは自由の中にある不自由さを
わかち合おうとすることなのか

その子にたいする優しさはお互いの不自由さを
愛し合おうとすることなのか

不自由な子ども自身の求めるものが多ければ多いほど

家族のころにも求め合うことが多くなる

不自由な子よ

お前はさぐり当てられた地脈であるか

新しく噴き出る水のように謳いかけてくるので

わたしたちは手をさしのべずにはいられない

わたしたちの自由であると思われる両手で受ける

聖霊の水を汲みかわすように

そこで顔を洗い 咽喉にふくみ 飲み証かす

家族のさし出す手の形はそれぞれちがっているけれど

不自由な子よ

わたしたちは日日受ける掌から動脈へと

貫ぬいていくものに求心する

見えない時刻——佳美がうたう——

(にいちゃん どうして逃げてくの
わたしが玩具を放すから

にいちゃん どうして逃げてくの

わたしが なにも話さないから

とうちゃん どうして逃げてくの

わたしが 歩いて追えないから

かあちゃん どうして逃げてくの

わたしが すべてを欲しがるから)

さみしいなんてもんじゃない

朝が逃げてく

昼が逃げてく
夜が逃げてく

カラ カラ カラ カラ
カラ カラ カラ カラ

はる

なつ

あき

ふゆ

風鈴は

わたしの海の音を鳴らしてる

はるかに遠い いのちの岸辺で
毀れた貝がらが散っている

チカ チカ チカ チカ
ひかつてる

いのちのいたみ
あいの いたみ
星のことばのように
流れていく
ピカリ ピカリ
ひるがえっては

さみしいなんてものじゃない

白いシートに晒されて
わたしは見えない海の